

令和7年度

「運営に関する計画」  
(最終評価)



大阪市立瓜破小学校

令和8年3月

## 大阪市立瓜破小学校 令和7(2025)年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

今年度は、運営の計画の最終年度となる。これまで学校として取り組んできた目標に対して、未達成の項目に重点を置き、目標を設定したい。

「瓜破小学校安心ルール」を指導の基盤として使用し、教職員の間で一貫性のある指導をすることで一定の成果を得ることができている。一方で、様々な事情で学校に通うことが難しい不登校児童の改善においては課題が残っている。学校は児童の安全と成長を促進するために、いじめ対策や不登校支援を行い、指導方法や内容の改善を続けている。今後も、児童一人一人に合った指導を進めていく方針を継続したい。

学力においては、小学校学力経年調査の結果、第6学年が市平均を越え目標を達成したが、他の学年においては目標達成に至らなかった。今年度も算数科に焦点を当て、目標設定の基準を見直し、より児童の実態を明確に把握できるように取り組む。

教育環境の充実においては、教員と児童がICTの活用に慣れ親しむことで児童の学びの充実と教員の負担につなげることができている。しかしながら、依然として業務量の軽減には課題が残っており、更なる働き方改革の検討が必要である。

## 中期目標

## 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

○全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。(令和5年度81.0%,令和6年度84.8%,**令和7年度96.2%◎**)

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(令和5年度2.77%,令和6年度4.10%,**令和7年度2.10%◎**)

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(令和5年度は25.0%改善、令和6年度は60%改善,**令和7年度は66.7%◎**)

## 【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。(令和5年度33.2%,令和6年度39.8%,**令和7年度37.1%△**)

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。(国語)【4年R6:0.65⇒**R7:0.74◎**】,【5年R6:0.83⇒**R7:0.93◎**】【6年R6:0.92⇒**R7:0.84△**】(算数)【4年R6:0.69⇒**R7:0.81◎**】,【5年R6:0.88⇒**R7:0.88△**】【6年R6:0.86⇒**R7:0.91◎**】

○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。(令和5年81.1%,令和6年度83.6%,**令和7年度71.2%△**)

○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(令和5年度71.9%,令和6年度66.5%,**令和7年度61.4%△**)

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を73%以上にする。(令和5年度70.0%,令和6年度65.6%,**令和7年度67.3%△**)

## 【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

○学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。**(週1回という目標を達成できなかった)**

○ゆとりの日(18時セット)を週に1回設定・実施し、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2(年間720時間を超えない、1か月45時間を超える月を6か月まで、1か月100時間を超えない、連続する複数月の1か月平均80時間を超えない)を満たす教員の割合を80%以上にする。(令和5年度96%,令和6年度100%,**令和7年度96.15%◎**)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【安全・安心な教育の推進】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。（令和5年度68.8%、令和6年度79.1%、**令和7年度83.8%◎**）
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。（令和5年度は25.0%改善、令和6年度は60%改善、**令和7年度は66.7%○**）

#### 学校園の年度目標

- 年度末の児童アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を100%にする。  
（令和5年度97.3%、令和6年度97.2%、**令和7年度95.1%△**）

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。  
（令和6年度：4年(-7) 5年(-6.3) 6年(+13.2)、**令和7年度：4年(+12) 5年(±0) 6年(+5) ○**）
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を73%以上にする。（令和5年度70.0%、令和6年度65.6%、**令和7年度67.3%△**）

#### 学校園の年度目標

- 大阪市経年調査において算数科における「学力に課題の見られる児童」の割合をいずれの学年も0.5ポイント減少させる。（令和6年度 達成学年1/4（4年12.7% 増加 5年10.3% 増加 6年27.7% 減少）、**令和7年度 達成学年2/4（4年4.3% 減少 5年10.0% 増加 6年20.7% 減少 ○**）

### 【学びを支える教育環境の充実】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（**令和7年1月時点47.1%△**）
- ゆとりの日（18時セット）を週に1回設定・実施し、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2（年間720時間を超えない、1か月45時間を超える月を6か月まで、1か月100時間を超えない、連続する複数月の1か月平均80時間を超えない）を満たす教員の割合を80%以上にする。（令和5年度96%、令和6年度100%、**令和7年度96.15%○**）

#### 学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査において「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%にする。（令和5年度58.2%、令和6年度62.7%、**令和7年度62.0%○**）

### 3 本年度の自己評価結果の総括

#### 【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は 83.7%（令和6年度 84.8%）

○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合 66.7%だった。昨年度に比べると、不登校の改善傾向がみられた。（令和6年度は 60%）

○年度末の児童アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合は 83.8%（令和6年度 79.1%）

（総括）

「いじめについて考える日」や道徳科での学習を通じて、児童のいじめに対する理解は進んだが、具体的に「いじめとは何か」を理解できていない児童もいるため、今後も定義を含めた指導を継続する。

不登校児童への支援として、児童に寄り添い、家庭訪問や電話での関わりを続けている。そのため、少しずつではあるが改善傾向が見られた。引き続き、孤立しないように家庭への支援を行う。

「瓜破小学校安心ルール」を指導の基盤として使用し、教職員の間で一貫した指導ができています。しかし、ルールを理解していない児童もいるため、学年や学級の実態に応じた説明し、ルールの徹底を図る必要がある。

このように、学校は児童の安全と成長を促進するために、いじめ対策や不登校支援を行い、指導方法や内容の改善を続けている。今後も、児童一人一人に合った指導を進めていく方針を継続したい。

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント向上させる項目で、4年+12・5年±0・6年+5であり、向上が見られた。（令和6年度 4年-7・5年-6.3・6年+13.2）

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は 67.3%（令和5年度 70.0% 令和6年度 65.6%）

○大阪市経年調査における算数科の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント減少させる項目で、4年-4.30%、5年+10.0%、6年で-20.7%であった。（令和6年度 4年+12.7%・5年+10.3%・6年+27.7%）

（総括）

学力の向上については半分の学年が目標達成に至らなかった。理由として、計画的に実施はしたものの、対策が十分に効果を上げていないからと考えられる。特に、朝学や子どもとの日など日常的な学習活動において、見直しを行う必要がある。

運動についても、指標に対して目標を下回った。目標設定の基準を見直し、より児童の実態を明確に把握できるように次年度以降は改善したい。また、児童が運動する機会を確保するため、時間と場所の提供が必要だと考える。

朝食については、ほけんだよりやえいようだよりでの啓発活動は一定の成果を上げているが、市平均と比較して朝食を毎日食べている児童の割合が低い。この点についても地域や家庭の実態を踏まえた上で、さらに効果的な啓発方法や支援を検討したい。

全体的に、実態を反映させた目標設定や新しい取り組みを通じて、今後の活動にさらなる改善を加えることが重要だと考える。

### 【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の47.1%

○ゆとりの日（18時セット）を週に1回設定・実施し、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2（年間720時間を超えない、1か月45時間を超える月を6か月まで、1か月100時間を超えない、連続する複数月の1か月平均80時間を超えない）を満たす教員の割合は96.15%（令和5年度96%令和6年度100%）

○小学校学力経年調査において「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は62%（令和6年度62.7%）

（総括）

学習者用端末の利用率が目標の50%に対して47.1%にとどまっていたが、12月以降の利用率は80%を超えるようになってきており、児童が実際に端末を活用する機会が増えていることを示している。実際には、学習者用端末を利用した授業（パワーポイントやスカイメニューを使った意見交換）は行われているが、さらに学習者用端末の利用の定義に幅を持たせ、実態に即した評価を行う必要がある。

教員の時間外勤務は昨年とあまりかわらず、約25時間で校種別平均を3時間超えている。時間外勤務時間の30時間以下の人数割合は減っているものの、逆に45時間以下の人数が若干増えている月もある。週1回のゆとりの日の設定により定時退勤を目指してはいるものの、勤務時間の改善が実感できていないという点は、業務量や時間配分の見直しが必要であることを示唆している。「勤務時間と業務量が合っていない」といった教員の実感から、さらに効率的な業務運営が必要であり、難教員の負担軽減に向けた継続的な対策が必要である。

読書活動の指標目標60%に対して62%は若干の上回りを達成しているが、学年別に差がある。図書委員会やボランティアの読み聞かせ活動が一定の効果を挙げている。今後は、読書活動を学校全体で組織的に推進し、学年の実態に応じた内容を提供することが、さらに効果的な読書推進につながると考えられる。

(様式2)

大阪市立瓜破小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b> <b>全市共通目標(小学校)</b> ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 ○年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <b>学校の年度目標</b> ○年度末の児童アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を100%にする。	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容, 取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1, 安全・安心な教育環境の実現】 ○瓜破小学校安心ルールを指導のよりどころにして、児童が安心して学校生活を過ごすことができるように指導を重ねていく。 ○児童が困ったときに、教職員集団全員で困り感を受け止め、丁寧に指導にあたる。	<b>C</b>
<b>指標</b> ○年度末の児童アンケートにおける「学校は安心できる場所だ」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%にする。	
取組内容②【基本的な方向2, 豊かな心の育成】 ○多様な特性への相互理解を深め、一人ひとりの自尊感情を育てていく。 ・芸術鑑賞の実施 ・校外体験活動の実施 ・性の多様性の学習の実施	<b>A</b>
<b>指標</b> ○年度末の児童アンケートにおける「いろいろなことを知りたい、やってみたいと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を80%にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① 安心ルールをもとに、児童が安心して学校生活を送ることができるように指導を続けてきた。児童が相談してきた場合はしっかりと話し聞き安心して学校生活を過ごすことができるように指導を重ねてきた。しかし、学校では目が行き届かない事案(放課後やSNSでのトラブルなど)による対応が多かった。その都度対応してきたが、その影響か学校で安心して過ごすことができないと感じる児童がいたのかもしれない。 また、児童がいじめや不登校などで困っているときに、学年や学校全体で共通理解を図り、教職員集団全員で指導にあたるようにした。	

取組内容②

多様な特性への相互理解を深め、一人ひとりの自尊感情を育てていくために、様々な体験学習を計画的に実施することができた。

次年度への改善点

校内では、学校安心ルールをもとに、教職員がチームで指導を継続してきた。しかし、学校では目が行き届かない事案が多く発生した。今後は、放課後の過ごし方や SNS でのトラブルなどについても、事前指導を行ったり保護者への啓発をしたりしていきたい。そして、今以上に児童や保護者が安心して過ごせる学校を目指して行く。

## 大阪市立瓜破小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標(小学校)</b></p> <p>○小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.5 ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 71% 以上にする。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○大阪市経年調査において算数科における「学力に課題の見られる児童」の割合をいずれの学年も 0.5 ポイント減少させる。</p>	<b>C</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○既習学習にさかのぼって、朝学習等を活用した補充指導を行い、算数科の基礎学力の定着と向上を図る。</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、算数科を中心に授業改善に取り組み、教員の授業力向上を図る。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <p>○算数科の授業研究を各学年で年 1 回以上実施する。</p> <p>○年度末の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を年度当初より増加させる。</p> <p>○メンター部会や自主研修を学期 1 回以上実施する。</p>	<b>C</b>
<p>取組内容②【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <p>○運動を楽しみながら行える学習活動や取り組みを学期に一回以上行う。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 71% 以上にする。</p>	<b>C</b>
<p>取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <p>○朝ごはんの大切さを指導し、学校だより、栄養だより、ほけんだよりを通して家庭にも啓発する。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <p>○児童アンケートで「毎日、朝ごはんを食べていますか」という項目に対して肯定的な回答をする児童の割合を年度当初より増加させる。</p>	<b>C</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>全市共通目標</p> <p>全市共通目標および学校の年度目標の学力系の指標の結果が不明のため、判断しづらいが、「授業はわかりやすいか」や「運動やスポーツをすることは好きですか」の児童アンケートの結果が指標を達成できていないため、C とした。</p>	

取り組み内容①

取り組みは行えているが、アンケートの肯定的な回答の結果が年度当初より減少しているため、Cとした。今後も教職員の授業改善に向けた研修等を継続的に行う必要あり。

取り組み内容②

経年調査の結果から、目標を達成できなかったため（一部目標を達成している学年もあるが）Cとした。一年を通して継続して行えるイベントや取り組み、マラソン週間やなわとび週間、出前授業などを取り入れるといった工夫が必要。

取り組み内容③

アンケートの結果から、目標を達成できなかったためCとした。（家庭環境も関係しているため朝ごはんに関する指導は難しい）

けんこう週間カードを作ることで、児童自身が自分ごととしてとらえることができるのでは。

次年度への改善点

すべてにおいて計画的に実施はしているものの、目標を達成できていない。数値目標が高くなかなか達成できない目標ため、指標の見直しが必要である。

## 大阪市立瓜破小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p><b>全市共通目標(小学校)</b></p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(令和6年1月時点 1.4%)</p> <p>○ゆとりの日(18時セット)を週に1回設定・実施し、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2(年間720時間を超えない、1か月45時間を超える月を6か月まで、1か月100時間を超えない、連続する複数月の1か月平均80時間を超えない)を満たす教員の割合を80%以上にする。(令和5年度 96%、令和6年度 2月時点 100%)</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○小学校学力経年調査において「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%にする。(令和5年度 58.2%、令和6年度 62.7%)</p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6、教育DXの推進】</p> <p>○児童の心の変化や効果的な学習活動になるように、心理面・学習面など多面的に学習者用端末を活用する。</p> <p>指標</p> <p>○年度末の児童アンケートにおける「いつもタブレットを使っている」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を前年度より増加させる。</p>	<b>A</b>
<p>取組内容②【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○教員が児童の前で健康で生き生きと働くことができ、児童一人ひとりに向き合う時間を確保するように取り組む。</p> <p>指標</p> <p>○ゆとりの日(18時セット)を週に1回設定・実施し、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を80%以上にする。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容③【基本的な方向8、生涯学習の支援】</p> <p>○学校図書館、読み聞かせボランティア活動、読書ノートを活用することで児童が読書に親しむ環境の充実を図る。</p> <p>指標</p> <p>○小学校学力経年調査において「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%以上にする。</p>	<b>B</b>
<p>取組内容①</p> <p>数値目標を達成している。心の天気の入力の徹底、授業における使用頻度の向上などから</p>	

も、指標に掲げた目標を上回ったとみられる。一方で、スクラッチなどからゲームにアクセスし、隠れてタブレットで遊ぶ児童がいるのも事実。指導と教育が必要と考えられる。

#### 取組内容②

数値目標を達成している。学校全体として、ミマモルメの登録徹底による朝の電話対応が減ったことや、手紙の配布がなくなったことは大きな業務軽減になった。校時の変更による下校時刻の繰り上げも会議の時刻を早める一因となっている。また、集団登校の廃止による対応の軽減も挙げられる。学年によっては、教科担任制を取り入れて教科指導の準備をスリム化し、リフレッシュできる時間を捻出したケースもある。

#### 取組内容③

数値目標を達成している。休み時間の活用、読書タイムの固定化、委員会による積極的な啓発が関わっていると考える。

#### 次年度への改善点

すべてにおいて目標どおりに達成することができた。心の天気の入力の徹底を促すことで、12月以降の使用頻度が向上したとみられる。今後も継続して続けて行くと同時に、タブレットの使い方の指導も必要である。教員に勤務時間に関しては、ミマモルメの登録徹底による朝の電話対応が減ったことや、手紙の配布がなくなったことは大きな業務軽減になった。校時の変更による下校時刻の繰り上げも会議の時刻を早める一因となっている。その反面、業務量が見合っていないといった実感もあるので、業務量の見直しもしていく必要がある。

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立瓜破小学校 学校協議会

1 総括についての評価

- ・本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。
- ・細かく分析され、今後の課題（目標）も明確にされていると思う。
- ・不登校児童の状況について今後も子どもに寄り添った対応をお願いしたい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

○年度末の児童アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を100%にする。

- ・目標の100%には届いていないが、いじめの未然防止そして早期発見のために、いじめアンケート、担任による日々の生活指導等、学校が様々な措置を講じていることは評価できる。

年度目標：【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

○大阪市経年調査において算数科における「学力に課題の見られる児童」の割合をいずれの学年も0.5ポイント減少させる。

- ・今後も学力向上のために、基礎基本の定着をさらに図ってほしい。
- ・反復練習が効果的ではないかと思う。
- ・また、次年度へつなげてほしい。

年度目標：【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

○小学校学力経年調査において「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を60%にする。（令和6年度62.7%、令和6年度67.9%）

- ・読書については少しずつ上回ってきている。
- ・さらに、読書環境の充実に努める必要がある

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・子どもを力で押しえつけるのではなく、子どもの思いを受け止め、理解しようとする取り組みをされているとのこと。
- ・今後もていねいに子どもとかわっていただきたい。